

とうきょう すくわく プログラム

こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

港区立西麻布保育園 実践紹介！

とうきょう すくわくプログラムってなに？

幼稚園や保育所において、子供たちが好奇心や興味を持って、わくわくしながら遊び、学べるよう応援する取り組みです。取り組みを通じて、子供たちの自己肯定感や思いやりといった豊かな心の育ちをサポートしていきます。

すくすく

すべての乳幼児の
伸びる・育つ

×

好奇心・探究心

を応援する幼保共通のプログラム

東京都

「非認知能力」の育成等、乳幼児の成長・発達をサポート

なんで？ どうして？

できるかな？ こうしてみよう！

できた！ 今度はあれをやってみようかな

好奇心を持つ
きっかけを増やす

考えを広げる

考えを深める

すくわくプログラムはどんなことをするの？

安全安心な環境のもと、子供たちが興味・関心を深められそうなテーマを園で設定し、好奇心を持つきっかけを増やしたり、考えを広げ、深めたりする取り組みを行います。

非認知能力とは

自己にかかわる心の力

- 自尊心
- 自己肯定感
- 意欲
- 粘り強さ

社会性にかかわる心の力

- 心の理解能力
- 共感
- 思いやり
- 協同性

テーマに関する子供たちの考えやイメージを引き出すための問い（例：〇〇ってなあに？）を考え、素材や道具を準備し活動を行います。

テーマ例：光・色・自然・音・泥遊び・絵本など

豊かな心の育ちを応援
乳幼児期は、「非認知能力」を培う大切な時

東京大学大学院 教育学研究科 教授 同附属発達保育実践政策学センター (CEDEP) 長 遠藤 利彦

子供が伸びやかに成長していくためには、無限大の好奇心に従って、心躍らせながら遊び学ぶことが重要です。また、同年代の子などと互いの個性を認め合いながら、1つのことに協力して取り組むことも大切です。この認識のもと、東京都と CEDEP は、「とうきょう すくわくプログラム」の支援に連携して取り組んでいます。



とうきょう すくわくプログラムは
こちらからご覧いただけます。

とうきょう すくわくプログラムは、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター (CEDEP) との協定の下、東京都の「とうきょう すくわくプログラム推進事業」として策定したものです。



港区立西麻布保育園

電話

03-3409-4924

所在地

東京都港区西麻布 2-13-3



港区立西麻布保育園で

5歳児クラス



とうきょうすくわくプログラムに取り組みました

テーマ じごくと てんごく

発表会の劇を通じて子供たちが興味を持った「じごく」について、さらに探究を深めるためテーマを設定しました。

活動① 自分にとっての「じごく」と「てんごく」ってなあに？

まず、劇のテーマだった「じごく」と「てんごく」について、子供たちに問いかけながら、考えを深めました。



じごくってどんなところ？

悪い人が死んだら
行くところ

鬼がいっぱいて怖い



てんごくってどんなところ？

みんなを見守れる

安心する

てんごくはやさしい国



自分にとっての「じごく」と「てんごく」を紙にペンで書いてイメージを膨らませました。

活動② 「じごく」と「てんごく」を表現しよう

次は、散歩した際に子供たちが集めた自然物や、身近なりサイクル素材などの様々な素材を用いて、それぞれの「じごく」と「てんごく」を表現しました。



赤い落ち葉を「マグマの色」に見立て、素材からイメージを膨らませたり、針がたくさんある「じごく」を表現するために先の尖った段ボール紙とドングリを使ったりするなど、



自分の表現に合った素材を活用しながら、「じごく」と「てんごく」の世界を表現しました。

お互いの作品について、「ここはどんな場所？」と話しながらそれぞれが作った世界を共有しました。
活動の後には、作った「じごく」と「てんごく」を子供たち自らカメラで撮影しました。

活動を通して

「じごく」は子供たちにとって怖いもの見たさのような、とても興味があるものでした。
活動の中でいろいろな表現方法・素材を用いながら“こわさ”や“やさしさ”など目に見えないものを具体化し、考え深め・発見し・確かめて表現する機会となりました。
また、対話を通し、一人ひとりの「じごく」そして「てんごく」を引き出し、独自の世界が見られました。

